

平成27年度

# 橋梁技術発表会及び講演会

参加費無料  
定員200名  
申込先着順

会場 北海道経済センター  
8F Aホール

〒060-8610 札幌市中央区北1条西2丁目  
Tel.011-231-1355

13:00~13:10 開会の辞

北海道土木技術会 鋼道路橋研究委員会  
委員長 林川 俊郎

13:10~13:25 橋建協報告

(※)広報委員会

## 第1部:技術発表会

13:25~14:05 1.寒冷地における鋼橋RC床版の  
耐久性向上について

(※)床版小委員会 床版技術部会 田中 喜一郎

14:05~14:15 休憩

14:15~14:55 2.鋼橋解体撤去工事の留意点

(※)架設小委員会 架設部会 越中 信雄

14:55~15:35 3.震災時における補修・補強事例  
～応急対応から本復旧まで～

(※)保全委員会 保全第1部会 田中 寛泰

15:35~15:45 休憩

## 第2部:特別講演会

15:45~16:45 橋梁デザインに現れる地域文化

千葉工業大学 工学部  
デザイン学科 準教授  
八馬 智



16:45~16:50 閉会の辞

(※)橋梁技術発表会 実行委員会 委員長 上原 正

(※)は、(一社)日本橋梁建設協会

主催: 北海道土木技術会 鋼道路橋研究委員会  
<http://www.koudourokyo.net/>

共催:  一般社団法人 日本橋梁建設協会 <http://www.jasbc.or.jp/>  
Japan Bridge Association Inc.

平成27年  
日時 10/23(金)  
13:00~16:50

申込方法 ①Fax. 011-261-2427(鋼道研)  
②ホームページ(URL) <http://www.jasbc.or.jp/>  
の「技術発表会申し込み受付け」まで(受付は9月上旬から)

申込期限 平成27年10月9日(金)

連絡先 鋼道路橋研究委員会 講習・講演小委員会  
担当 小笠原 TEL 011-241-4948  
日本橋梁建設協会 北海道事務所  
担当 寺島 TEL 011-232-0249

継続教育 土木学会認定CPD(継続教育)プログラム(予定)

※東京地区は 10月 9日(金) 銀座プロッサムホール  
大阪地区は 10月16日(金) ドーンセンター  
東北地区は 11月 6日(金) 仙台国際センター  
中部地区は 11月13日(金) 東建ホール  
九州地区は 11月27日(金) レゾラNTT夢天神ホール 開催です。  
申し込み等詳細はホームページでご確認願います。

技術発表会(第1部)の発表原稿のPPT及び論文はホームページに掲載しますので、ご希望の方はダウンロードしていただくようお願いします。

## アクセス



- 地下鉄南北線・東西線大通駅より 徒歩7分
- 東豊線大通駅より 徒歩2分
- さっぽろ地下街北大通西2丁目「市役所・経済センター出口」より 徒歩1分

# 技術発表会概要

## 1 寒冷地における鋼橋RC床版の耐久性向上について

寒冷地における道路橋RC床版は直接荷重を受けるだけでなく、凍結融解、水や塩化物の浸入など、様々な環境作用を受けることから、橋梁部材の中では損傷事例が多く、その補修工事が橋梁の維持管理コストの大半を占めている。特に東北地方の復興道路は、一時期に集中して整備が行われるため、同様の補修工事が集中しないよう高耐久性のRC床版が求められている。

そのような背景から、当協会既刊資料の「RC床版施工の手引き(平成22年版)」を補完する資料として新たに「鋼橋RC床版施工手順書」を取りまとめた。ここでは、手順書本文より寒冷地における劣化事例として凍害、塩害、疲労、および鋼橋の構造特性に対する配慮不足や施工上の不具合によるものを示すとともに、これらに対する最新の知見と施工時に注意するべき項目を紹介する。加えて、手順書で示した耐久性向上対策を取り込んだ実物大の試験体の実験結果を報告する。

## 2 鋼橋解体撤去工事の留意点

築後50年を経過する鋼橋が急増しつつあり、設置された環境と管理状況によっては損傷が激しく、補修を行っても要求性能が満足しない鋼橋もある。このような鋼橋については解体撤去となるが、損傷している鋼橋を切断し吊り上げるため、慎重な対応が必要となる。

ここでは、解体工法の選定方法例を提案するほか、具体的な事例をもとに解体の基本となる応力解放や部材切断作業時の安全施工上の留意点について述べる。

## 3 震災時における補修・補強事例

～応急対応から本復旧まで～

阪神淡路大震災以後、耐震基準の見直しに伴う耐震補強の効果により、先に発生した東日本大震災における鋼橋の被害は、津波によるものを除けば大きな損傷は少なかった。

しかし、我が国は地震国でありその発生頻度は高く、今後もその緊急な対策・対応、恒久的な補修・補強対策は必要不可欠である。また、橋梁の高齢化により保全の時代と言われている現在、震災時以外にも応急対応などが必要となるケースも予想される。

本報告は、過去の震災での経験を次に活かすために、応急対応から本復旧までの補修・補強事例を紹介するものである。

### 特別講演会

#### 橋梁デザインに現れる地域文化

八馬 智

千葉工業大学 工学部 デザイン科学科 准教授

#### 講演概要

土木構造物の多くは、その地域固有の特性や課題に対応してつくられる。そのため、土木構造物によって生み出された風景を紐解くことで、地域を再発見することが可能と言える。自然の「力」に向き合う橋梁においても、そのデザインには地域文化が色濃く反映されている。本講演では、主に欧州各地の橋梁デザインを大量の写真によって紹介しながら、地域文化への接近方法を探る。

#### 一略歴

1993年 千葉大学工学部工業意匠学科卒業  
1995年 千葉大学大学院工学研究科工業意匠学専攻 修士課程修了  
1995年 株式会社ドーコン(日・北海道開発コンサルタント) 勤務  
2004年 千葉大学大学院工学研究科デザイン科学専攻 助教  
2008年 千葉大学大学院自然科学研究科人間環境デザイン科学専攻 博士課程修了  
2010年 アイントホーフェン工科大学(オランダ) 客員研究員  
2012年 千葉工業大学工学部デザイン科学科 准教授

#### 現在に至る

一受賞歴一  
2003年 土木学会デザイン賞 優秀賞(小樽市 堀町本通)  
2012年 土木学会デザイン賞 奨励賞(札幌みんなのサイクル ポロクル)

#### 一業務分野一

土木学会誌表紙デザイン「技術の手触り」シリーズ(2013)および「大地の手触り」シリーズ(2014)担当。  
近著「ヨーロッパのドボクを見に行こう」(自由国民社、2015)。  
工業デザインを学ぶ過程で土木構造物の魅力に目覚め、1995年に株式会社ドーコンに入社。橋梁のデザインや技術営業支援などを通じて、土木業界にデザインの価値を埋め込もうと奮闘した。  
2004年より千葉大学に移り、デザインの教育研究に方向転換した。2012年より現職。専門は景観デザインと産業観光。現在は本業とともに、「インフラツーリズム」を中心とする「土木」のイメージアップを目指んだプロモーション活動を多角的に行っている。

FAX番号:011-261-2427

平成27年度

10月23日(金)

橋梁技術発表会  
[北海道地区]

参加申込書

所 属	団体名	所属
氏 名	役職	氏名
住 所	〒	
電話番号	FAX番号	
E-mail		
前回参加の有無 有 · 無		